



Informatica® 新機能ガイド
10.1.1 HotFix 2

Informatica **新機能ガイド**

Informatica 新機能ガイド Informatica 新機能ガイド

10.1.1 HotFix 2

2017 年 10 月

© 著作権 Informatica LLC 2009, 2018

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Big Data Management、PowerCenter、および PowerExchange は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2018-06-13

目次

序文	4
Informatica のリソース.....	4
Informatica Network.....	4
Informatica ナレッジベース.....	4
Informatica マニュアル.....	4
Informatica 製品可用性マトリックス.....	5
Informatica Velocity.....	5
Informatica Marketplace.....	5
Informatica グローバルカスタマサポート.....	5
 第 1 章 : 新機能 (10.1.1 HotFix 2)	6
コマンドラインプログラム (10.1.1 HF2)	6
infasetup コマンド (10.1.1 HF2)	6
Informatica トランスフォーメーション.....	6
アドレスバリデータトランスフォーメーション.....	6

序文

*Informatica の新機能および改良点ガイド*は、すべての Informatica ソフトウェアユーザ向けに書かれています。このガイドは Informatica 製品での新機能および改良点のリストです。

Informatica のリソース

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica グローバルカスタマサポート、Informatica ナレッジベースなどの製品リソースをホストします。Informatica Network には、<https://network.informatica.com> からアクセスしてください。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ドキュメント、FAQ、ベストプラクティスなどの製品リソースをナレッジベースで検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

ドキュメント、ハウツー記事、ベストプラクティス、PAM などの製品リソースを Informatica Network で検索するには、Informatica ナレッジベースを使用します。

ナレッジベースには、<https://kb.informatica.com> からアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

使用している製品の最新のドキュメントを取得するには、https://kb.informatica.com/_layouts/ProductDocumentation/Page/ProductDocumentSearch.aspx にある Informatica ナレッジベースを参照してください。

このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) です。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica Network メンバである場合は、PAM (<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>) にアクセスできます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスによって開発されたヒントおよびベストプラクティスのコレクションです。数多くのデータ管理プロジェクトの経験から開発された Informatica Velocity には、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を行ってきた弊社コンサルタントの知識が集約されています。

Informatica Network メンバである場合は、Informatica Velocity リソース (<http://velocity.informatica.com>) にアクセスできます。

Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を強化したり拡張したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Informatica の開発者およびパートナーの何百ものソリューションを利用して、プロジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスできます。

Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用できます。

第 1 章

新機能（10.1.1 HotFix 2）

ここでは、バージョン 10.1.1 HotFix 2 の新しい機能について説明します。

コマンドラインプログラム（10.1.1 HF2）

ここでは、バージョン 10.1.1 HotFix 2 の新しいコマンドについて説明します。

infasetup コマンド（10.1.1 HF2）

次の表に、新しい infasetup コマンドの説明を示します。

コマンド	説明
updateDomainName	ドメイン名を変更します。

詳細については、『*Informatica 10.1.1 HotFix 2 コマンドリファレンス*』の「infasetup コマンドリファレンス」の章を参照してください。

Informatica トランスフォーメーション

ここでは、バージョン 10.1.1 HotFix 2 の新しいトランスフォーメーション機能について説明します。

アドレスバリデータトランスフォーメーション

ここでは、アドレスバリデータトランスフォーメーションの新機能について説明します。

アドレスバリデータトランスフォーメーションでは、次の国について住所機能が追加されました。

オーストリア

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、アドレスバリデータトランスフォーメーションを設定して、2 つの有効な所在地住所があるメールボックスの郵便アドレスコード識別子を返すことができます。例えば、2 つの道路の交差点にある建物は、両方の道路の住所を持つ場合があります。その建物は、いずれかの住所でメールを受け取るようにすることができます。もう 1 つのアドレスは、有効なままですが、郵便事業者はメールの配達に使用しません。

オーストリアポストは、両方の住所に郵便アドレスコードを割り当てます。オーストリアポストは、さらに、メールを受け取らない住所に郵便アドレスコード識別子を割り当てます。郵便アドレスコード識別子は、優先アドレスの郵便アドレスコードと同じです。郵便アドレスコード識別子を使用して、アドレスバリデータトランスフォーメーションの優先アドレスを検索できます。

オーストリアの住所の郵便アドレスコード識別子を検索するには、郵便アドレスコード識別子 AT 出力ポートを選択します。このポートは [AT 補足] ポートグループにあります。

郵便アドレス識別子が表す住所を検索するには、郵便アドレスコード識別子 AT 入力ポートを選択します。このポートは [個別] ポートグループにあります。

チェコ共和国

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、有効なチェコ共和国に RUIAN ID 値を追加するように、アドレスバリデータトランスフォーメーションを設定できます。

次の RUIAN ID 値があります。

- RUIANAM_ID。配達場所を一意に識別します。
配達場所を一意に識別する RUIAN ID 値を検索するには、RUIAN 配達場所識別子出力ポートを選択します。
- RUIANSO_ID。建物レベルに対する住所を識別します。
建物レベルに対する住所を識別する RUIAN ID 値を検索するには、RUIAN 建物識別子出力ポートを選択します。
- RUIANTEA_ID。建物の入口を識別します。
建物への入口を識別する RUIAN ID 値を検索するには、RUIAN 建物入口識別出力ポートを選択します。

これらのポートは [CZ 補足] ポートグループにあります。

香港

アドレスバリデータトランスフォーメーションには、香港に関する次の機能が含まれています。

香港の住所の多言語サポート

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、アドレスバリデータトランスフォーメーションは、中国語または英語で香港の住所の読み取りおよび書き込みをすることができます。

トランスフォーメーションによって返されるアドレスに優先される言語を選択するには、[優先される言語] プロパティを使用します。デフォルトの言語は中国語です。香港の住所を英語で返すには、プロパティを英語に更新します。

アドレスデータに優先される文字セットを選択するには、[優先されるスクリプト] プロパティを使用します。デフォルトの文字セットは、繁体字です。香港の住所をラテン文字で返すには、プロパティをラテンまたは ASCII オプションに更新します。ラテン語スクリプトを選択すると、アドレス検証によってアドレスデータがピンイン式に変換されます。

提案リストモードでの単一行アドレス検証

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、単一行に入力した香港の住所に対して有効な提案を返すように、アドレスバリデータトランスフォーメーションを設定できます。提案を返すには、提案リストモードで実行するようにトランスフォーメーションを設定します。

ネイティブの中国語および繁体字スクリプトで住所を入力します。アドレスバリデータトランスフォーメーションは、繁体字スクリプトで住所を読み取り、繁体字スクリプトで住所提案を返します。

香港の住所を次の形式で入力します。

[地域] [市区町村] [通り] [住居番号] [建物 1] [建物 2] [建物内]

住所の一部を入力すると、トランスフォーメーションにより、入力した住所に対する住所提案が 1 つ以上返されます。完全な住所またはほぼ完全な住所を入力すると、トランスフォーメーションは、入力する住所に対する提案を 1 つ返します。

1 行の住所を確認するには、[住所の正式表記] ポートを使用します。

マカオ

バリデータトランスフォーマーシヨントランスフォーマーシヨンには、マカオに関する次の機能が含まれています。

マカオの住所の多言語サポート

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、アドレスバリデータトランスフォーマーシヨンは、中国語またはポルトガル語でマカオの住所の読み取りおよび書き込みをすることができます。

トランスフォーマーシヨンによって返されるアドレスに優先される言語を選択するには、[優先される言語] プロパティを使用します。デフォルトの言語は中国語です。ポルトガル語でマカオの住所を返すには、プロパティを ALTERNATIVE_2 に更新します。

アドレスデータに優先される文字セットを選択するには、[優先されるスクリプト] プロパティを使用します。デフォルトの文字セットは、繁体字です。マカオの住所をラテン文字で返すには、プロパティをラテンまたは ASCII オプションに更新します。

注: デフォルトの優先言語オプションを使用してラテン語スクリプトを選択すると、アドレス検証によって中国語の住所データが広東語または繁体北京語に変換されます。ALTERNATIVE_2 優先言語オプションを使用してラテン語スクリプトを選択すると、アドレス検証はポルトガル語で住所を返します。

提案リストモードのネイティブのマカオの住所に対する単一行のアドレス検証

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、提案リストモードで単一行に入力したマカオの住所に対して有効な提案を返すように、アドレスバリデータトランスフォーマーシヨンを設定できます。住所の一部を提案リストモードに入力すると、トランスフォーマーシヨンにより、入力した住所に対する住所提案が 1 つ以上返されます。中国語および繁体字スクリプトで住所を送信します。トランスフォーマーシヨンは、中国語および繁体字スクリプトの住所提案を返します。マカオの住所を次の形式で入力します。

[市区町村] [通り] [住居番号] [建物]

[優先される言語] プロパティを使用して、住所に優先される言語を選択します。デフォルトの優先される言語は中国語です。アドレスデータに優先される文字セットを選択するには、[優先されるスクリプト] プロパティを使用します。デフォルトの優先されるスクリプトは、繁体字です。単一行の住所を確認するには、[住所の正式表記] ポートに住所を入力します。

台湾

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、中国語または英語で台湾の住所を返すようにアドレスバリデータトランスフォーマーシヨンを設定できます。

トランスフォーマーシヨンによって返されるアドレスに優先される言語を選択するには、[優先される言語] プロパティを使用します。デフォルトの言語は繁体字中国語です。英語で台湾の住所を返すには、プロパティを英語に更新します。

アドレスデータに優先される文字セットを選択するには、[優先されるスクリプト] プロパティを使用します。デフォルトの文字セットは、繁体字です。台湾の住所をラテン文字で返すには、プロパティをラテンまたは ASCII オプションに更新します。

注: ネイティブスクリプトの台湾アドレス構造により、すべてのアドレス要素が単一行で一覧表示されます。住所は、[フォーマットされたアドレス行] ポートに 1 つの文字列として入力できます。

入力住所を書式設定する場合は、次の順序で住所に要素を入力します。

郵便番号、市区町村、従属する市区町村、町名、下位の町名、住宅または建物の番号、建物名、棟名

米国

アドレスバリデータトランスフォーマーシヨンには、米国に関する次の機能が含まれています。

セキュアなハッシュアルゴリズムに準拠したバージョンの CASS データファイルのサポート

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、アドレスバリデータトランスフォーメーションは、SHA-256 標準に準拠した CASS 認証データファイルを読み取ります。

現在の CASS 認証ファイルの番号は、USA5C101.MD から USA5C126.MD までです。認定モードの米国の住所を確認するには、現在のファイルを使用する必要があります。

注: SHA-256 準拠ファイルは、古いバージョンの Informatica と互換性がありません。

認証モードで Do Not Accessible (DNA) の住所のサポート

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、郵便事業者にドアまたはエントリポイントを提供しない米国の住所を識別するために、アドレスバリデータトランスフォーメーションを設定することができます。郵便事業者は、その住所に大きなアイテムを配達できない場合があります。

米国郵政公社では、メールボックスにアクセス可能ではあるが、物理的な入口に到達できない住所のリストを保持します。例えば、住宅がロックされたゲートの外側または地方集配路線にメールボックスを置いていることがあります。アドレス参照データには、USPS が認識するアクセスできない住所のリストが含まれています。アドレス検証は、認証モードで住所を確認するときに、住所のアクセス可能な状態を返すことができます。

DNA の住所を識別するには、[配達場所検証 (DNA)] ポートを選択します。このポートは [米国特有] ポートグループにあります。

認証モードでのセキュアでない場所の住所のサポート

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、メールのセキュアなメールボックスまたは受信ポイントを提供しない米国のアドレスを識別するために、アドレスバリデータトランスフォーメーションを設定できます。郵便事業者は、その住所に大きなアイテムを配達できない場合があります。

米国郵便サービスは、メールボックスがセキュアでない住所の一覧を保持します。例えば、郵便事業者がストアに入ることができてもメールを受け取るメールボックスや従業員を見つけることができない場合、小売店はセキュアな場所ではありません。住所参照データには、USPS が認識するセキュアでない住所のリストが含まれています。アドレス検証は、認証モードで住所を確認するときに、住所のセキュアでない状態を返すことができます。

DNA の住所を識別するには、[配達場所検証 (セキュアでない住所)] ポートを選択します。このポートは [米国特有] ポートグループにあります。

私書箱のみの配達ゾーンのサポート

バージョン 10.1.1 HotFix 2 では、私書箱のみでその他の住所がない郵便番号を識別するように、アドレスバリデータトランスフォーメーションを設定することができます。郵便番号内のすべての住所が私書箱の住所である場合、郵便番号は私書箱のみの配達ゾーンを表します。

アドレスバリデータトランスフォーメーションは、値 Y を住所に追加して、私書箱のみの配達ゾーンの郵便番号が含まれていることを示します。この値により、郵便事業者はメールをより簡単にソートすることができます。例えば、私書箱のみの配達ゾーン内のメールボックスは、1 つ郵便局のビルに存在する場合があります。郵便事業者は、1 回ですべての郵便物を私書箱のみの配達ゾーンに届けることができます。

私書箱のみの配達ゾーンを識別するには、[私書箱配達ゾーンインジケータ] ポートを選択します。このポートは [米国特有] ポートグループにあります。

詳細については、『*Informatica 10.1.1 HotFix 2 Developer トランスフォーメーションガイド*』および『*Informatica 10.1.1 HotFix 2 アドレスバリデータポートリファレンス*』を参照してください。